

枝幸町におけるナガハシスミレの分布

村山良子¹⁾・高島孝宗²⁾

¹⁾ 枝幸町文化財保護委員会・²⁾ 枝幸町教育委員会

はじめに

枝幸町におけるナガハシスミレ (*Viola rostrata*) の初めての確認は、筆者の一人である村山によってなされた (村山, 2002)。ナガハシスミレは淡紫色の花を咲かせる有茎種のスミレで、ナガハシスミレ (長嘴堇) という和名の示すように、唇弁の距が2cm近くにも長く発達し、斜上して突き出すその形状から、天狗の鼻に見立て「テングスミレ」との別名もある。

ナガハシスミレの国内分布は北海道の檜山地方から東北の奥羽山脈西側、中部の北部、北陸と中国の日本海側に分布し、その分布範囲は年平均最高積雪深100cmのラインの範囲内にはほぼ一致するとされる (浜, 1975)。北海道内における同種の分布は、檜山地方に主分布があり、胆振や石狩、後志地方の一部にも及んでいる (五十嵐, 2003)。宗谷地方では枝幸町の他には浜頓別町宇曾丹で、北海道大学の中井秀樹、伊藤浩司が確認しているとされ (村山前掲)、隔離分布の状態にあるものとされている。オホーツクミュージアムえさし (枝幸町教育委員会社会教育課) では特異な分布を示す同種の生育地の保全を視野にいれ、2004年より開花状況の確認調査を行ってきた。本年度調査はその5年目にあたる。

調査方法

枝幸町におけるナガハシスミレの花期は毎年5月初旬から中旬だが、本年は雪解けが早く、5月初旬の段階で開花を確認したため、2008年5月4日に調査を行った。調査は目視により開花株数

をカウントし、分布範囲を確認した。ナガハシスミレの確認は主に村山が行い、高島が位置測定および写真撮影を行った。

調査地点

ナガハシスミレの分布が確認されたのは、枝幸市街より北北西に約8km、東流してオホーツク海に注ぐ落切川の左岸段丘上である (図1.)。標高は40~50mを測る。なお、携帯型GPSによる緯度経度の測定を行ったが、文中では非公開とする。

生育地は国有林内に開削された林道沿いの

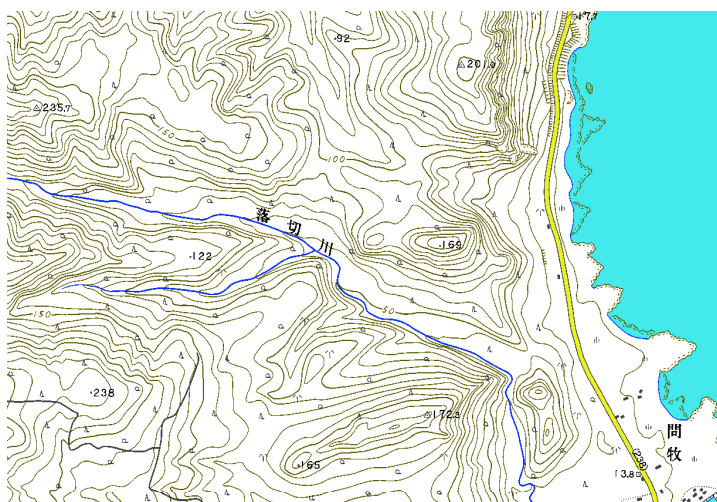


図1. ナガハシスミレ生育地位置図 (縮尺1:25,000)

崖面となっており、融雪やエゾシカの踏みわけなどによる自然崩落が進んでいるが、植生に大きな影響を与えるほどの地形の変化は確認できない。ナガハシスミレの生育地は、低地のやや乾燥した落葉樹林下、林縁、道路沿いの崩壊法面とされており (五十嵐, 1998)、枝幸町問牧における生育地の特徴とも合致し

ている。

生育地となる崖面の下位には、落切川に注ぐ小さな流れがあり、ミズバショウ (*Lysichiton camtschatcense*) やエゾノリュウキンカ (*Caltha fistulosa*) が群生している。

調査結果

ナガハシスミレの分布は、人工林であるトドマツの林床下縁から崖面の全面にわたっている。比高1.5~4m×幅約10mの範囲に66株の開花を確認することができた(写真1.2.)。また、写真の崖面の対面でも数株の開花を確認している。

写真の崖面においては、他種に先がけて咲くナガハシスミレ以外の他のスミレはほとんど確認できず、対面でナガハシスミレ群落の縁辺にフイリヤマスミレ (*Viola selkirkii* var. *variegata*) やオオタチツボスミレ (*Viola kusanoana*)、アイヌタチツボスミレ (*Viola sacchalinensis*) 数株の開花を確認するにとどまった。



写真1. ナガハシスミレ生育地の状況

経年変化をたどると、2004年の確認調査では数株を確認しただけであったが、2005年~2006年の調査ではさらに十数株の開花を確認している。さらに昨年の確認調査では、やはり十数株のナガハシスミレがミヤマスミレなどの他のスミレとともに群落を形成している状況が確認できた。村山が初めて確認した2002年以降、本生育地において本種が定着している状況が確認されたと言える。

今後も引き続き、生育地の推移を見守っていきたいと考える。



写真2. ナガハシスミレの開花状況

成果と課題

本年度の調査においてもナガハシスミレの開花を観察し、さらに安定的に定着が進んでいる状況を確認することができた。本種の特異な分布を研究する上で、本生育地の保全を図ることが望ましいものとする。また、同種の調査・記録を通じて枝幸町の自然環境を見直し、自然保護思想の啓発を図ることも地域の社会教育を担う博物館施設の使命と考える。一方、無制限な情報の開示は本種の盗掘を促すことになりかねないため、分布情報の取り扱いについては慎重を期す必要がある。今後、本種の分布の特性および社会教育への活用の全般にわたり、専門の研究者による調査が行われることが望まれる。

参考文献

浜栄助, 1975; 日本のスミレ. 誠文堂新光社
五十嵐博, 1998; ナガハシスミレの北海道分布 (予報). 北海道野生植物研究所報告5
五十嵐博, 2003; ナガハシスミレの北海道分布. 北海道野生植物研究所報告24
村山良子, 2002; オホーツク・セミナーの副産物. オホーツクナビゲーションセンター